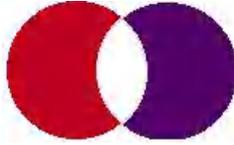


日韓市民ネットワーク・なごや

일한 시민 네트워크·나고야

会報 No.47
(通知版)
2009-8-15



発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788
Mail:goto@nikkannet.jp
HP:http://www.nikkannet.jp/

★ 事務局通信 -----事務局 総括幹事：後藤 和晃

1) 12月23日(火・休)は会員交流の日です！ ～ 気軽に、ご参加下さい！ ～

この12月23(火・休)の夕方5時から、名古屋韓国学校(名古屋市・地下鉄東山線亀島駅から徒歩2分)の2階で、日韓市民・交流の夕べを開きます。今回は交流の主体を日韓の会員や協力を頂いている方々とし、留学生は数を少なくする方針です。その理由は会報43号で触れた通り、韓国からの学生交流団の招聘のため、熱心に寄付を続けて頂いている方でも、「交流の夕べ」では顔を見ないというケースが増えていていると思うからです。

団体の活動は、参加している人たちが時々顔を合わせ、対話や旅行を共にして、楽しさや一体感、目的意識を共有する事で成り立っていくといえるでしょう。私達のグループも、会結成からこれまでの10年半の間、東海3県だけでなく東京や関西に住む会員たちも含め、交流会や歴史紀行で出会い、絆を強めてきました。

日韓市民ネットワーク・なごやが今後も活動を継続してゆくとすれば、やはり会員が集い、語らい、問題意識を共有するなど一体感を味わう必要があるのではないのでしょうか？ この冬の12月23日(火・休)は、会員同志の「同窓会」として、ぜひ参加いただくようお願いいたします。この日は、韓国語を勉強しているグループや敗戦によって韓国や旧満州から引き揚げてきたグループ、さらに2009年の4月から文化センターで開講する予定の「日韓交流史 2000年のロマンを歩く」を受講するグループなど、いくつもの人の渦ができると考えています。東京や京都からも、はるばる訪れる人たちがいます。ぜひスケジュールに組み入れていただくよう再度お願いしておきます。参加費用や郵便振替による事前振込みについては、従来どおりです。

記

- 行事 “日韓市民”交流の夕べ
- 日時 2008年12月23日(火・祝) 17:00～19:30
- 場所 名古屋韓国学校2階教室
※ 地下鉄亀島駅2番出口から徒歩2分
- 内容 食べて飲んで対話し、合唱もして心を通わす集いです
- 参加確認 会報に同封のアンケートハガキで参加など確認します
- 参加費 会員・一般成人 3500円 大学・高校生 2000円

郵便振替

口座名 日韓市民ネットワーク・なごや

口座番号 00830-4-36485

※ 今回は寄付は募りません

※ 恐縮ですが振込みは12月10日まででお願いします。



会員の参加費は、
お手数ですが、
同封の振込用紙で
郵便局から会の口座に
振り込んで頂くよう
お願いします。

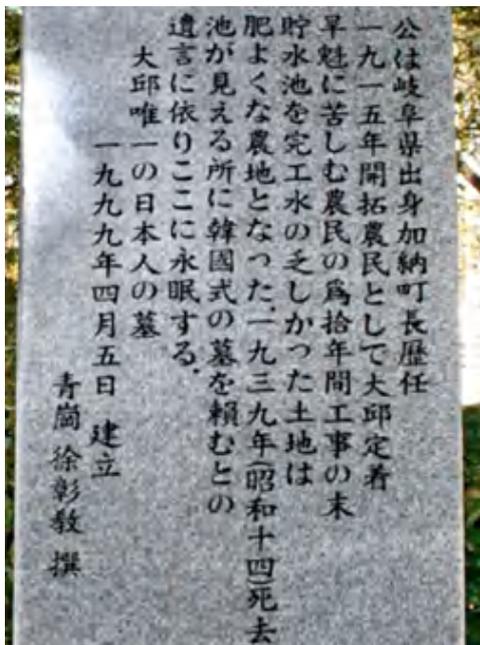
(2) 故水崎林太郎翁の顕彰碑文、新たに ～ 韓国・大邱市寿城地区 ～

今年10月に、事務局2名で大邱市を訪れ、装いをかえた水崎翁の顕彰碑を見てきました。戦前、韓国の大邱市に移住し、干ばつと洪水に苦しめられていた農民たちのために、朝鮮総督府と直談判して大貯水池を完成させたのが岐阜市出身の故水崎林太郎翁でした。寿城池と名付けられた貯水池のおかげで、茫漠（ぼうぼく）たる荒野は、250万坪をこえる広大な美田に姿を変え、水崎翁が“大邱農民の恩人”とまでたたえられたことは、会員の皆さんよくご存知のことでしょう。

この水崎翁は昭和14年に現地で亡くなり、寿城池のほとりに朝鮮式の土まんじゅうの墓に葬られました。それからの70年にわたる年月の間、この墓を守り通してきたのが池の近くに住む、徐彰教（ソ・チャンギョ）さんの一族です。徐さんは9年前に墓の大改修を行うと共に、東大寺の清水公照長老（故人）の直筆を頂き水崎翁の顕彰碑を建て、大々的に追慕祭を行いました。今回、碑文を改めたのは、これまでの年月、追慕祭を支えた日韓の協力者の名をしっかりと刻んでおきたいという動機があったようです。

表の面には徐彰教さんの池を讃える日本文の詩と、日本側関係者の名が彫られています。水崎翁の子孫で私たちの会員でもある水崎弘三さんや、水崎元宏さん、東大寺の清水公照さんと法隆寺の大野玄妙さんなど奈良の大寺のお坊さんたち、そして九州の陶工、沈寿官さんなどの名が並んでいます。

水崎翁の顕彰のために徐彰教さんが、いかに努力されてきたかがしみじみ伝わってくる碑面に変っていました。皆さんも大邱周辺を訪問される時は、ぜひ水崎翁の墓に参り、碑文を読んできて下さい。



(3) 江原道寸景 ～五台山の古寺～

この10月末、事務局2人で江原道の五台山の古寺と江陵の史蹟を見てきました。五台山では目のさめるような紅葉に包まれた名刹月精寺(ウォルチョンサ)と上院寺(サンウォンサ)を訪ねました。

下の写真は月精寺の国宝の石塔と本堂の内部そして上院寺にある韓国最古の吊り鐘(新羅 聖徳王時代)です。吊り鐘も当然国宝に指定されており下の方に楽器を奏する飛天たちの優雅な姿が浮き彫りされていました。このデザインが海を渡り、大和の法隆寺の壁画や東大寺大仏殿前の灯籠に影響を与えたと思うと感慨深いものがありました。いずれの日か五台山や江陵へも皆で旅したいものと思っています。



★ お知らせ-----事務局

第16回韓日歴史・文化フォーラム

日時 2008年11月26日(水) 18:00開演
場所 愛知韓国人会館5階ホール
※地下鉄東山線「亀島」駅3番出口から西へ1分
会費 500円
主催 韓日歴史・文化フォーラム実行委員会



韓国ドキュメンタリーの巨匠が描いた
閔妃暗殺の真実とは！？
～チョン・スウン氏の作品と語り～

作品

日韓併合の前夜の1895年10月、朝鮮の王宮に深夜、日本人公使に操られた日本人浪士や朝鮮人兵士らが乱入、美貌の王妃閔妃（ミンピ）を暗殺し、裏山で遺体を焼却するという大事件を起した。近現代の日韓交流史上の最大の汚点とも言える事件で、以来日本や日本人に対する不信感や敵意を増幅させる最大の要因となっている。閔妃暗殺の真実を克明な調査報道で明らかにした日本人・在日必見のドキュメンタリー

講師

鄭 秀雄（チョン・スウン）氏

1943年ソウル生まれ、国営放送局KBSでプロデューサーとして活躍

国内外のドキュメンタリーの賞を総なめにする

1982年日本に渡り、故牛山純一氏に2年間師事

1985年ドキュ・ソウル設立・韓国ドキュメンタリーの巨人として著名に…

1988年ソウルオリンピック映像総監督

2001年日韓中テレビ製作者フォーラム常任委員長（現在）

※出欠の返事は、11月20日(木)までに下記へFAX・Eメールでお知らせ下さい

韓日歴史・文化フォーラム事務局（民団愛知内）丁光荣（チョン・グァンヨン）

TEL：052-452-6431 FAX：052-452-1716

Eメール：jigyoo@mindan-aichi.org



編集後記(2008/11/11)

会報 No.44(通知版)をお届けします。落ち葉に秋の深まりを感じる昨今ですが、皆さんいかがお過ごしですか？さて皆様にお知らせがあります。いままで会報の編集責任者であった早川さんがご結婚された上、仕事も忙しくなりひとまず任務を降りることになりました。

野村さんの後、長い間本当にご苦労様でした。心から感謝いたします。今回から、ホームページ管理者である中川が担当することになりました。私も仕事を持っており早川さんのようには行かないと思いますがよろしく願いいたします。

編集：中川 修介

[Mail:webmaster@nikkannet.jp](mailto:webmaster@nikkannet.jp)